

[学会] 第1020回 千葉医学会例会
第18回 神経内科教室例会

日時：平成12年12月16日(土) 14:00~18:00

場所：ホテルサンガーデン千葉

1. IgG 抗 GT1a 抗体を伴う急性球麻痺

小野寺正和, 畠山温子, 上司郁男
(千葉労災)
森 雅裕, 桑原 聡, 福武敏夫
(千大)

症例は29歳男性。下痢, 発熱などの先行感染の後急性に球麻痺が進行した。経過中眼球運動障害を認めず, 球麻痺のほか頸部上肢筋に軽い筋力低下を認めるのみであった。血清 IgG 抗 GT1a 抗体強陽性を認め Guillan-Barré syndrome の一亜型の acute oropharyngeal palsy と診断した。血漿交換 (IAPP) が著効し, 同抗体の病院論的関与が示唆された。

2. 抗ガングリオシド抗体陽性の脳幹脳炎の1例

平賀陽之, 下江 豊, 高木健治
(鹿島労災)
森 雅裕, 桑原 聡 (千大)

症例は昏睡状態で搬送された47歳男性。経過不詳で眼頭位反射消失と深部腱反射消失を認め, 肺炎, 消化管出血, 糖尿病を合併していた。経過中内眼筋麻痺, 顔面神経麻痺も出現, ステロイドセミパルス療法施行したが改善せず, 合併した肺炎のため2週間で死亡。死後 IgG 型抗 GQ1b 抗体陽性が判明。従来予後良好といわれている Bickerstaff 型脳幹脳炎だが本症例のように急激な意識レベル低下で発症する劇症型がある。

3. POEMS 症候群と VEGF

山本喜昭, 森 雅裕, 中田美保
大和田暁之, 三澤園子, 加藤直子
根本有子, 川口直樹, 青墳章代
桑原 聡 (千大)
谷 将之, 高橋伸佳 (君津中央)

血清 vascular endothelial growth factor (VEGF) 上昇を認めたニューロパチー3症例を報告した。1例は典型的な POEMS 症候群であったが, 他の2例は多発ニューロパチーが主体で, 他の臨床所見に乏しかった。

ため, 第1回目の入院時には診断がつかなかった。このような POEMS 症候群の不全型の診断に, VEGF が有用であると考えた。

4. 難治性三叉神経痛に対するガンマナイフ治療

松田信二, 石川千恵子, 鈴木淳也
朝比奈真由美, 本間甲一
(千葉県循環器病)
芹澤 徹, 小野純一
(同・脳神経外科)

内科的治療で疼痛制御困難な三叉神経痛患者28例にガンマナイフによる定位的放射線手術を施行した。神経ブロックまたは血管減圧術が20例に施行されていたが効果不良であった。23例で3ヶ月以上の経過観察を行い, 11例で疼痛消失, 11例で疼痛軽減を認めた。即ち96%で日常生活に支障を感じない程度の改善を得た。合併症を4例で認めたが, 顔面の痺れ感および眼球違和感であり軽度であった。難治性三叉神経痛に対するガンマナイフ治療は有用である。

5. 内頸動脈塞栓症の臨床経過についての検討
—脳血管撮影と脳血流検査を用いて—

小松幹一郎, 古口徳雄
八木下敏志行
(千葉県救急医療)
和田政則, 徳永 仁, 宮田昭宏
小林繁樹, 中村 弘, 佐藤 章
渡辺義郎 (同・脳神経外科)

内頸動脈塞栓症24症例を脳血管撮影で側副血行の有無と発達程度, SPECT で残存血流量, CT で脳浮腫, 出血性梗塞の出現時期, 程度を評価し転帰の差異を検討した。

転帰は Glasgow outcome scale で GRO, MD2, SD13, V1, D8 例だった。転帰不良群の特徴としては, 側副血行に乏しいもの, 広範な脳血流量の低下を認めるものが挙げられた。発症早期に起こる脳浮腫は腫脹が強く転帰不良であった。出血性梗塞は転帰を左右しなかった。